カペラ・シンガポール

世界にはまだまだ日本人が訪れていないホテルがある。このコーナーではホテリエが知っておくべき「世界のリーディングホテル」を紹介する。
これまで多くのホテル紹介本が出版されてきたが、そのほとんどが現地のホテルと事前に取材の連絡を取り合い、プロのカメラマンや通訳、そのほか大勢を連れ立っての大名取材であり、宿泊は省略といったことも多々であった。本連載では、著者自身が長年にわたる個人旅行中に自分の目で感じ取り、コメントを書き込み、自分のカメラで思いのままを撮ってきた写真を掲載する。

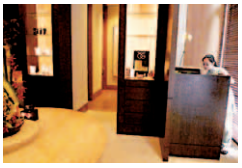
※本連載は毎月2・4週号掲載

カペラ・シンガポールの正面エントランス車寄せ。コロニアル調の制服を着たベルスタッフがすぐアテンドしてくれる

コロニアル棟「Tanah Merah」の全景の俯瞰。1880年代に英国軍によって建てられた歴史的なコロニアル建築で、現在は見事に修復されている

各客室にはこのような美しい曲線の外廊下の回廊をたどって行く。ちょうど8の字のカーブの部分で何度見ても飽きない建築構成だ。手入れの行き届いた中庭との調和が見事に溶け合っている

曲線美を最大限に追求したノーマン・フォスター卿率いる「Foster+Partners」のデザイン。カペラ・シンガポールの一番の見所だ。左側の廊下の先には人気のスパ「Auriga」がある



スパ「Auriga」のレセプションホール。月の運行による満ち欠けが人間の体に及ぼす影響は良く知られている。それを科学的にスパトリートメントに取り入れたメニューが人気で予約が難しいくらいだ

オープンエアのラウンジから眺めた広大な庭園の一部。手前から第1プールと第2プールが見え、第3プールはその先にひっそりと隠れている。後方は南シナ海の大海原だ

ライブラリーのラウンジを抜けるともう一つの癒やしの空間に出合う。ここが一番コロニアルの雰囲気が漂うティーラウンジで、中央のカウンターには数種のティーをはじめ、飲み物やフレッシュフルーツが常時提供されている

筆者　小原康裕

ホテルジャーナリスト。慶応義塾大学法学部法律学科卒。74年Munich Re入社。85年築地原健㈱代表取締役。2001年投資顧問会社原健設立、代表取締役CEO。
※現在、著者のホームページで「世界のリーディングホテル」を連載中。多くの美しい写真と興味深いコメントで、世界中のホテルとそれら関連都市を紹介。ホテルだけにとどまらず、オリエントエクスプレスなど鉄道関係の掲載、季節刊行で世界遺産の案内などさまざまな情報が得られる。
www.jhrca.com/worldhotel

シンガポールの中心から車で15分の理想的な立地を誇るセントーサ島に、スーパーラグジュアリー&リゾートホテル「カペラ・シンガポール」が誕生した。元リッツ・カールトン・ホテルカンパニーのCEOホルスト・シュルツ氏がアジアで最初のフラッグシップモデルとして、セントーサ島の熱帯雨林の生い茂る30エーカーもの敷地に2009年に開業させた。

カペラ・ホテルズ&リゾーツはシュルツ氏が02年にリッツ・カールトンを退任した後すぐに構想が練られ、最高級を求める顧客に本物のラグジュアリーを提供する新しいホテルブランド「カペラ」を創設した。リゾート地以外でもデュッセルドルフにあるドイツでも屈指の名門ホテル、「ブライデンバッハー・ホーフ」を傘下に収め、ニューヨーク5番街に「ザ・セタイ・5thアヴェニュー」をマネージド・ホテルとして運営している。驚いたことに12年夏には日本の北海道ニセコに4万坪の広大な敷地を得て、最高級ブティックホテルをオープンさせる予定だ。

セントーサ島はマレー語で「平和」という意味で、島のほぼ中心にある広大な敷地に白亜の建物が2棟誇らしげに建っている。「Tanah Merah」タナメラと呼ばれる英国統治時代に建築されたコロニアルな歴史的建物で、現在は見事に修復されている。ホテルのロビーはこの1階にあり、2階の宿泊者専用のライブラリーでは各種ティーやフレッシュフルーツが提供され優雅に読書を楽しむことができる。ホテルはこの建物を中心に趣を変えたモダンな建築群がぐるりと8の字を描いたレイアウト構成だ。圧巻なのは優美な曲線を描いた客室棟と、純白の直線で描いたコロニアル棟の対比で、視覚に訴えた絶妙な建築感覚である。華僑の多いシンガポールで、中国では幸運ナンバーとされる八の字型を新感覚で採用した訳だ。

設計、デザインを担当したのは著名なイギリス人ノーマン・フォスター卿が率いる「Foster+Partners」で、曲線の魔術師とも呼ばれプリツカー賞をはじめ多くの賞を受賞している権威だ。そうした背景をもとに改めてこのカペラの建築美を見ると納得させられる部分が多々ある。ちなみに北海道ニセコのカペラの設計は、今や時代の寵児となった安藤忠雄氏が手掛けることで決定したと聞く。

カペラはシンガポール最大級の広さを誇る77㎡の標準客室プレミアルームから、133㎡以上のプール付きヴィラ、コロニアルマナーの計112室を擁している。さらに階段状に南シナ海を眺められる三つの野外プール、メインダイニングの「Cassia」、オールデイダイニングの「Knolls」や「Bob's Bar」などで滞在を満喫できる。「Auriga Spa」では満月、新月など月の形と身体のコンディションを結び付けたユニークなトリートメントもある。スタッフは日本人やドイツ人など国際色豊かで、その完璧なホスピタリティーにある種の心地良さを覚えた。

東京で言えばお台場の距離にこのような桃源郷があるとはうらやましい限りで、マリーナ・ベイ・サンズの開業とともにますますシンガポールから目が離せなくなってきた。

実に独創的デザインと言えるレストラン内部だ。多くの茶葉をチョイスできる昼のアフタヌーンティーもお勧めだが、左手に見えるワインコレクションを眺めながらのディナーも楽しい

オールデイダイニング「Knolls」を入るとすぐ右側にティーカウンターがある。中国、インド、日本など30種以上の茶葉がガラスの容器にプレゼンテーションされている

キングベッドの反対側に大型のパウダールームがあり、ダブルシンクの余裕の造りだ。左側はドレッサーになっていて、その両側に大型のワードローブが備えてある。写真では見えないが、パウダールームの先に南シナ海を眺望するビューバスがある

ベッドルームからシッティングルーム方向の俯瞰。この部屋はカペラ・スイートと呼ばれる客室で約100㎡の広さを誇る。大きな窓からは三つの野外プールと、その先に南シナ海を臨むことができる

客室棟から野外プールに向かう途中に、目の覚めるような眺望が開けるラウンジに出合う。大規模なオープンエアの空間演出で、ゲストの昂揚感を常に意識した作りだ